

公益社団法人 日本動物学会
平成 26 年度 第五回理事会議事録

1.開催された日時 平成 27 年 6 月 13 日 (土) 13 : 00-18 : 00

2.開催された場所 北海道大学東京オフィス

3 理事総数及び定足数

総数 18 名 定足数 9 名

4 出席理事数 18 名

(出席) 高畑雅一、山下正兼、田村宏治、出口竜作、武田洋幸、窪川かおる、稲葉一男、竹井祥郎、蟻川謙太郎、筒井 和義、井口泰泉、浅見崇比呂、沼田英治、倉谷 滋、富岡憲治、尾崎浩一 小泉修、佐藤矩行

(監事出席)阿形清和、長濱嘉孝

(オブザーバ出席) 深津武馬 (Zoological Science 編集主幹)

5 議題

報告事項

(1) 会長報告

- 2016 国際動物会議の開催について
- 研究機関等からのアンケート、要望書について
- 新刊 OA ジャーナルについて

(2) 庶務報告

- 新入会員の状況について

(3) 会計報告

- 予算執行状況

(4) Zoological Science 編集報告

- 出版状況、ハイブリッド化についての説明

(5) Zoological Letters 編集報告

- 出版状況

(6) UniBio Press からの購読料返還について

(7) 東北支部補助金の返還について、近畿支部出版による収入について

(8) 平成 27 年度新潟大会について

(9)平成 28 年度国際動物学会議、沖縄大会について

(10)平成 29 年度富山大会、平成 30 年度札幌大会について

(11)男女共同参画委員会主催懇談会について

(12)国際動物学会のシンポジウム小委員会 シンポジウム応募採択状況

(13)IT 委員会からの報告

審議事項

- (1)平成 27 年度「公益社団法人日本動物学会事業計画案」について

- (2)平成 27 年度「公益社団法人日本動物学会予算（案）」
- (3)平成 27 年度 論文賞について
- (4)平成 27 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞について
- (5)平成 27 年度成茂動物科学振興賞
- (6)平成 27 年度教育賞について
- (7)平成 27 年度奨励賞について
- (8)平成 27 年度動物学会賞について
- (9)感謝状の贈呈について
- (10)理事の選出方法について
- (11)学会賞等選考委員会よりの提案
- (12)名誉会員の推挙について

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

冒頭で蟻川庶務幹事が定足数の充足を確認し、続いて同理事より本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況および議決結果等

定款に基づき、武田会長が議長となり、本会議の成立を宣言した。議事録署名人は定款 35 条 2 に則り、武田会長、阿形監事、長濱監事として、議案の審議に移った。

○報告事項

(1) 会長報告

○2016 国際動物会議の開催について

基調講演者の顔ぶれもほぼ決まり、順調に準備が進められている。8 月 25 日から 28 日に西安で開催される国際動物学会（ISZS）の理事会、総会へ、ISZS の vice president である長濱監事と一緒に出席し、沖縄大会の準備状況の報告と宣伝をする予定である。その際に、参加料と登録開始日は示したいと考えている。

○研究機関等からのアンケート、要望書について

研究機関からの要望書等への対応が必要となり、また、本会としては、できうだけそういった要望に対応したいと考えている。理事にお知らせした通り、以下のように要望書への対応手順を決定したので、確認頂きたいと資料を見ながらの説明があった。

- ・動物学会または会員が関係するセンターや施設へのサポートは学会として積極的に行う。
- ・学会名、会長名で出す文書は、役員で議論した後に理事会へ提案して、承認を得る（メール審議）・直近の理事会で報告する。2015 年 5 月、以下の各機関に対応したと報告された。琉球大学熱帯生物圏研究センター、金沢大学環日本海域環境研究センター 臨海実験施設、マリンバイオ共同推進機構（JAMBIO）

○新刊 OA ジャーナルについて

新刊 OA ジャーナル科研費は、要件を満たしていなかったため、本年度は不採択となった。

本会としては、OA時代を迎えて、新たな戦略の基に開始した重要な活動である。そのため、科研費に依存するのではなく、自立を目指してスタートしているため、次年度は、すでに学会収支の見直しを行い、BioOneからの購読料が潤沢であることもあって、赤字なしに出版が可能である。来年度の科研費申請については、今後、編集長や皆様とも相談の上、検討を行いたいので、ご協力を御願いたい。また、投稿もお願いをしておきたい。

(2) 庶務報告

蟻川庶務より、6月4日に締め切られた新潟大会での演題登録数と新入会者数の説明があった。この4年間の大会での演題数と入会者数と比較したが、減少することなく、ほぼ同数で推移していることが説明された。

(3) 会計報告

出口会計幹事より、5月末までの収入と支出状況について、説明がなされた。あと1か月を残しているが、400万円ほどの資金があり、ZSS出版費用等や通常の支払を行うため、大きな黒字は望めないが、赤字を解消し、黒字に転じることになる予想であることが報告された。

(4) Zoological Science 編集報告

深津編集長より、資料を示しながら、報告がなされた。深津編集長は2015年より、前編集長より、業務を引き継いだところであることを踏まえ、隔月刊となり、1号に13編から15編の論文を掲載していること。今年の最終号になる6号は、ヒモムシの特集号であることが伝えられた。全体として、投稿数が30%ほど落ちていること、それがどういった理由であるのかは、現在不明であることが説明された。また、OA化時代に対応して、APCを支払って、OA論文にする場合はいくら支払えば良いかという問い合わせが来てもいる。そのため、そのAPCの金額を慎重に検討中であり、ハブリッド化の方向へ進めることになる旨が報告された。

(5) Zoological Letters 編集報告

倉谷理事。編集長より、BioMed Centralが作成した資料に基づいて、報告がなされた。投稿は順調であるが、OA誌でありAPCが無料であるために、ZLに掲載したいと考えているような論文が多く、特に海外から質の高い論文が投稿されていない状況である。海外研究者からの投稿を増加させたい旨、説明がなされた。また、理事に対して、論文投稿を御願いたい旨が重ねて述べられた。

(6) UniBio Press からの購読料返還について

事務局長から、BioOneからの購読料返還について、その業務をおこなっているUniBio Pressを通じて通知があり、資料に基づいて報告があった。2014年購読料は、円安の影響もあったが、720万円を超える購読料が返還されることの説明のあと、トップアクセス論文について、また、購読料モデルとOAモデルにおいては、アクセス数の持つ意味が異なることが、資料で説明された。また、Zoological Scienceが本年より隔月刊となったことで購読料は本年が最大になる見込みであり、次年度からは、減少することになるという説明が

あった。

(7) 東北支部補助金の返還について、近畿支部出版による収入について

東北支部長である田村理事より、昨年理事会で承認された東北支部支援金 8 万円については、支部の努力で返還できることになった旨が報告された。近畿支部からは、前年、近畿支部長であった、沼田理事（前近畿支部長）より、近畿支部が作成した「素晴らしい論文をかいたための秘訣」が予想以上に売れ、印税が近畿支部の収入となっていることが、報告された。

(8) 平成 27 年度新潟大会について

濱口新潟大会長に代わり、窪川理事（関東支部長）が、新潟大会 web site を示しながら、大会のシンポジウムジウム件数は 13 件である、関連集会は 5 件となっている。研究動物名を入力して頂くことになり、それを織りこんだ講演となる。準備等は、順調に行われており、さきほど庶務からの報告でも演題数も 500 を超えて、ほっとしている。多くの方々にご参加を頂きたい。

(9) 2016 年国際会議、国内会議について

国際会議議長である佐藤理事より、OIST が次年度開催される国際動物学会議に対して、基調講演者等への旅費の補助などを 4 月末の委員会で承認したことが報告された。

また国内大会を担う琉球大学からの意向を小泉理事（九州支部長）が説明を行った。内容は、九州支部大会でも話がなされたのだが、全支部でも、沖縄国内大会への積極的参加を御願したい旨が報告された。

(10) 平成 29 年度富山大会、平成 30 年度札幌大会について

事務局より、沖縄大会後の、富山大会では、新しく完成する市民会館での富山大会開催が検討され、コンベンションを支援する団体とも連絡を取りながら、本会の大会の新しい形を模索していきたい旨が伝えられた。またその翌年の札幌大会では、北海道大学が開催校となるが、札幌コンベンションセンターの費用見積もりなどはこれからであり、できるだけ会員の負担を減らす方向を検討する旨が伝えられた。

(11) 男女共同参画委員会主催懇談会について

窪川男女共同参画理事より、新潟大会での男女共同参画委員会による懇談会が開催されること、例年通り、ランチョンセミナーを企画するが、スポンサー企業を探していることが報告された。また、男女共同参画学協会連絡会では来年シンポジウム等でのオーガナイザーの男女比など調査を行いたいと述べた。

(12) 国際動物学会のシンポジウム小委員会 シンポジウム応募採択状況

国際交流担当稲葉理事より、次年度の国際会議におけるシンポジウムについて、シンポジウム小委員会を 3 月と 5 月に開催し、分野の重複や足りない分野について相談を行った旨、報告があった。原生動物と細胞生物で 2 枠を確保し、また ICZN からの要望により現在 3 枠を用意している、と報告された。また、オーガナイザーからは、旅費の補助はあるのか、参加費は無料かの問い合わせが多いが、「ない」と回答していること、1 枠 15 分であるが

1 題 30 分を認めるようにしたと説明があった。

(13) IT 委員会

蟻川庶務、IT 委員会委員長より、次年度の合同会議にむけて、国内と国際の登録どのようにするのか、検討を行う必要がある旨、述べられた。特に、琉球大学の意見を伺い、早急に枠組みを確認したいと加えて説明があった。

○決議事項

(1) 平成 27 年度公益社団法人日本動物学会事業計画案について

蟻川庶務より、平成 27 年度公益社団法人 日本動物学会事業計画案について、案が示され、説明がなされた。その結果、提案通り、決議された。

(2) 平成 27 年度公益社団法人日本動物学会予算案について

出口会計幹事より、予算案が示され、説明があった。支部活動補助金は、昨年理事会で決議したように、15 万円の支部費に満たない支部、北海道、東北、九州に関しては、15 万円と収入金額をし、支出もその金額としていること。BioOne からの購読料収入は、おそらく次年度が最高額であり、隔月刊によるページ数の減少により収入は減っていくものと思われるなど説明がなされた。審議の結果、予算案は、決議された。

(3) 平成 27 年度 論文賞について

深津 Zoological Science 編集長より、編集委員会が推薦する 2015 年 Zoological Science Award について、候補論文が示された。審議の結果、2015 年 Zoological Science Award は下記のように決議された。

Rhinoceros Beetles Suffer Male-Biased Predation by Mammalian and Avian Predators

Wataru Kojima, Shinji Sugiura, Hiroshi Makihara, Yukio Ishikawa and Takuma Takanashi

Zoological Science 31(3): 109–115

Sea Lily Muscle Lacks a Troponin-Regulatory System, While it Contains Paramyosin.

Takashi Obinata, Shonan Amemiya, Ryosuke Takai, Muneyoshi Ichikawa, Yoko Y. Toyoshima and Naruki Sato.

Zoological Science 31(3): 122–128

Segment Regeneration in the Vestimentiferan Tubeworm, *Lamellibrachia satsuma*

Norio Miyamoto, Ayuta Shinozaki and Yoshihiro Fujiwara

Zoological Science 31(8): 535–541

“Double-Trick” Visual and Chemical Mimicry by the Juvenile Orchid Mantis

Hymenopus coronatus used in Predation of the Oriental Honeybee *Apis cerana*

Takafumi Mizuno, Susumu Yamaguchi, Ichiro Yamamoto, Ryohei Yamaoka and Toshiharu Akino

Zoological Science 31(12): 795–801

Unraveling a 70-Year-Old Taxonomic Puzzle: Redefining the Genus *Ikedosoma* (Annelida: Echiura) on the Basis of Morphological and Molecular Analyses

Masaatsu Tanaka, Takeshi Kon and Teruaki Nishikawa

Zoological Science 31(12): 849–861

(4)平成 27 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞について

窪川理事 (OM 賞選考委員会委員長) より、平成 27 年度日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞について、委員会が推薦する二名の候補者について、説明がなされた。審議の結果、委員会の推薦通り、以下の二名に OM 賞の授与が決議された。

稲木美紀子 (いなき みきこ) 大阪大学 理学系研究科 生物科学専攻 非常勤特任研究員 研究テーマ「細胞キラリティが左右非相称な内臓捻転を誘導する機構の解明」

植木紀子 (うえき のりこ) 中央大学 理工学部 生命科学科 共同研究員 / 東京工業大学 資源化学研究所 附属資源循環研究施設 科研費教育研究支援員

研究テーマ「ボルボックス目の鞭毛運動から探る環境応答行動のしくみと変遷」

(5) 平成 27 年度成茂動物科学振興賞

学会賞等選考委員会委員長である浅見理事より、選考委員会の審議により推薦する候補者が示され、説明がなされた。その結果、以下の一名に、平成 27 年度成茂動物科学振興賞の授与を決定した。

岡田 龍一 (おかだ りゅういち) 兵庫県立大学環境人間学部・研究員

研究テーマ「ミツバチの社会性行動に関する生物学および数理学的研究：行動誤差の進化的意義の発見」

(6)平成 27 年度教育賞について

学会賞等選考委員会委員長である浅見理事より、選考委員会の審議により推薦する候補者が示され、説明がなされた。その結果、以下の一名に、平成 27 年度日本動物学会教育賞の授与を決定した。

経塚 啓一郎 (きょうづか けいいちろう) 東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター・准教授

(7)平成 27 年度奨励賞について

学会賞等選考委員会委員長である浅見理事より、選考委員会の審議により推薦する候補者が示され、説明がなされた。審議の結果、以下の二名に、平成 27 年度日本動物学会奨励賞の授与を決定した。

佐藤 伸 (さとう あきら) 岡山大学 異分野融合先端研究コア・准教授

研究テーマ「四肢再生における神経因子の研究」

中野裕明（なかの ひろあき）筑波大学下田臨海実験センター・准教授
研究テーマ「非モデル海産動物の生活史に関する進化発生学的研究」

(8)平成 27 年度動物学会賞について

学会賞等選考委員会委員長である浅見理事より、選考委員会の審議により推薦する候補者が示され、説明がなされた。審議の結果、以下の二名に、平成 27 年度日本動物学会賞の授与を決定した。

西川輝昭（にしかわ てるあき）東邦大学元教授・名古屋大学名誉教授
研究テーマ「海産無脊椎動物の系統分類学」

山下正兼（やました まさかね）北海道大学教授
研究テーマ「卵成熟を最終的に誘起する仕組みの解明：卵成熟促進因子(MPF)の形成/活性化機構における普遍性と多様性」

(9)感謝状の贈呈について

窪川理事より、東京大学院理系研究科附属臨海実験所技術専門職員である幸塚久典氏、また、井口理事より、浜松市在住 坂口章氏への、共に、動物学研究者への長年の支援に対して感謝状の贈呈を行いたい旨が述べられ、提案通り、決議された。併せて、武田会長より、本会の女性研究者支援 OM 賞の原資をご寄附くださり、その後 15 年にわたり、毎年ご寄附を続けて頂いている OM 様に感謝状をお渡ししたい。ご本人の強いご希望で、新潟大会でのお渡しではなく、会長、副会長がお会いして、お渡しすること、また OM 様という名前のまま、この感謝状について、お認め頂きたいと説明があり、提案通り、OM 様への感謝状贈呈が決議された。

(10)理事の選出方法について

沼田副会長より、前回からの議論に支部からの意見を踏まえ、総合的に検討した「本部案」が示され、審議に入った。定年制をおくという第二案は退け、第一案（支部選出理事を増員し、若手・女性枠を設ける）の考え方を取り入れた第三案（支部選出理事以外に会長推薦理事を設ける）の改定案を提案したいとの説明がなされた。

（沼田理事）一案では、被選挙者名簿を作成せねばならず、性別、年齢を伺わねばならないなどの問題もあるので、第三案の修正案を検討して頂きたい。その折りには、1つの支部から会長、副会長が選出された場合は、1名の繰り上がりを認めるという条項は削除することになる。目的は、若手、女性を積極的に理事に入れ、ジェンダーバランスを改善するとともに将来のスムーズな世代交代に寄与したいということである。また、会長の独断で理事が決定されるのではなく、現会長、副会長の相談によって理事を推薦し、北海道支部の意見を取り入れて、事前に被推薦者とその所属する支部の支部長の紹介を得ることを条件とする。また、その際に次期会長候補者、副会長候補者の意見は伺うことにもなる。

（尾崎理事）分野による偏りが、出てくる可能性があるだろう。その点は留意してもらい

たい。

(阿形監事) 発言をして良いかという申し出を武田議長が承認された。

理事=委員長であるのだが、若手の委員を委員会に入れることで、学会の活性化を狙った。その若手から、理事がでてくれば、良いのではないだろうか。

(窪川理事) かつて、自分自身も会長の依頼で理事となり、理事会で議論を聞くことで、大変勉強になった、若手を育てるためには、推薦理事が必要であると考えている。

(沼田理事) 将来計画委員会では、研究成果を出す事に追われている若手研究者が本当に委員会活動をしてくれるのだろうかと不安だったが、実際には、本会のことを考えて審議に積極的に参加し、意見を述べてくれた。若い方々はむしろ喜んでやってくれるのではないか。

(田村理事) 第一案の問題点を指摘するより、積極的に第三案を推されてはいかがか。

(小泉理事) 第三案は、本日伺って、良いのではないかと考えた。

(佐藤理事) 会長、副会長は、若手、女性を理事に投票して欲しいと言うべきである。

(倉谷理事) 海外学会では、若い人が積極的に学会に参加し、活動しているという印象がある。

(武田理事) そのことにも関わるが、本会の定款細則では、同票の際には、会員歴が長いほうが当選となっている。これはいかがか

(佐藤理事) 年齢が若いほうが当選で良いのではないか

(富岡理事) 年齢だけで良いのか？つまり女性、男性では？

(窪川理事) それはここでは違う話であるのではないか。

(佐藤理事) 会長枠というのは何名か。

(武田理事) 若干名という書き方で良いのであれば、9月の理事会で改定案をお示しいたい。

(武田理事) 同票の場合は若い会員に理事になって頂くこと、さらに推薦枠により有望な若い会員および女性会員に理事となってもらうことで学会運営に参画してもらう、という考えにしたい。この制度がうまく行けば、将来的には推薦枠を行使しなくても、選挙だけでバランスのよい構成の理事会となることを期待している。

上記の審議に基づき、定款細則修正案として事前に各支部へ伝え、もう一度各支部から意見徴集を行った上で、大きな反対が無ければ、新潟大会前日に開催される理事会に、修正案を提出することが決議された。

(11)学会賞等選考委員会からの提案

学会賞等選考委員会委員長である浅見理事から、本年度の選考を終えて、以下のような提案がなされた。Web での申請書受付を開始したが、その中で業績リストは、申請書に含まれているので、削除すべきかと考えるという説明があり、削除することと決議された。

成茂動物学賞と奨励賞の区別をつけるところから、選考を開始したが、この点に関して議論を御願いたい。

(尾崎理事) 推薦書の形式を変えるべきである

(武田理事) 賞の内容は明確に異なるが、そのことが明示されていない。整理をしたほうが良い。

(富岡理事) 成茂動物科学振興賞の性格から言って、研究計画を書いて頂くのが良いのではないか。

賞の性格と経緯を整理をした上で、改めて検討することが決定された。

(12) 名誉会員推挙について

理事より推薦された各候補者について審議した結果、浅島誠会員、石居進会員を名誉会員に推挙することを決議した。

新潟大会では、名誉会員証の授与が行われる旨が併せて決定された。

平成 27 年 6 月 ○日

以上、議事に相違がないことを証するため、署名を行う。

議長

議事録署名人

議事録署名人

